



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2025 年 9 月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで 63 年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026 年 6 月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CM を顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jpHP : <https://www.houkon.jp/>



2025 年 9 月度ギャラクシー賞月間賞

ＥＴＶ特集「アメリカに刻印を残す女たち～写真花嫁 百年の物語～」

9 月 6 日放送 日本放送協会

戦前、写真一枚を頼りに米移民日本人男性の許へ嫁ぎ異国へ渡った女性たちの苦難を、これから米国留学へ向かう若い女性が見つめ直す。民族差別の環境下での開拓の苦労、大戦勃発による日系人強制収容の理不尽。しかし収容所では、落ち込む男性を横目に写真花嫁たちは明るく元気で前向きだったという。そのたくましい精神の強靱さに感服。

木曜ドラマ「しあわせな結婚」

7 月 17 日～9 月 11 日放送 テレビ朝日 A01 Pro.

阿部サダヲと松たか子の絶妙な組み合わせの魅力、家族の会話劇のテンポのよさとミステリー要素が相まって、毎週続きが楽しみで地上波連ドラの良さを再認識した作品だった。「#脚本とともに観てみよう」のハッシュタグで、脚本とともに各話のシーンを視聴できる動画がソーシャルメディアで公開されていたのもよい取り組みだった。

ハートネットTV「放送 100 年・福祉をつなぐ L G B T Q + とメディア」

9 月 22 日放送 日本放送協会

N H Kに残るアーカイブから放送がこの問題を扱った具体的姿、また社会の感觸の変容を考察する。1950～70 年代の「畸形児」「隠花植物」といった差別的表現、80～90 年代でも「性同一性障害の病気」との言葉が使われたことなどを正直に見せ、近年の放送でも安易なラベル貼りとなる危うさを指摘するなど、その真摯な姿勢に敬意。

「僕達はまだその星の校則を知らない」

7 月 14 日～9 月 22 日放送 関西テレビ放送 ホリプロ

スクールロイヤーを主人公に、宮沢賢治的思想を巧みに織り込んだ本作は、単なる学園ドラマではなく、生徒たちとの出会いを通し、主人公が変容していく姿を細やかに描き、人間ドラマとした。特に星空と対話するかのような手作りプラネタリウムのシーンは、紡がれる言葉の美しさと情景の詩情においてテレビドラマ史に刻まれる名場面となった。

★詳細は月刊誌「GALAC」2025 年 12 月号に掲載します